## 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

| 事業所番号   | 4271402143                        |  |  |
|---------|-----------------------------------|--|--|
| 法人名     | 有限会社 みずほ福祉サービス                    |  |  |
| 事業所名    | グループホームみずほ野 東棟                    |  |  |
| 所在地     | 長崎県 雲仙市 瑞穂町 西郷 己797               |  |  |
| 自己評価作成日 | 平成22年11月20日 評価結果市町村受理日 平成23年1月14日 |  |  |

### 事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧して〈ださい。( このURLをクリック)

| 基本情報リンク先 | http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|
|----------|---|

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

62 な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構 |  |  |  |
|-------|------------------------------|--|--|--|
| 所在地   | 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階     |  |  |  |
| 訪問調査日 | 平成22年12月20日                  |  |  |  |

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| 自然に囲まれた当ホームは環境に溶け込む外観、施設を備えている。事業主が造園業も営んでいるため | 自然を

生かした造作がなされている。自然の持つ癒しと介護のマンパワーを合わせたサービスを理想としている。

入居者がデッキにて水音を愉しんだりできる庭園、露天風呂の他、畑には四季の野菜を育て収穫する愉しみ(癒し)とマンパワーを大切と考え職員のケアの均一化に努めている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から6年が過ぎ、今年度は利用者、職員の入れ替わりもあったことで、変化や節目として捉えながら支援の振り返りや見直しに着手し始めた。支援においては目標達成計画にも挙げた言葉かけ、接遇の課題に取り組み、コミュニケーションの重要性を再認識し利用者の笑顔がバロメーターとして努めている。新人をはじめ中堅、若手職員に対し、統一した支援とその質の向上が重要と管理者は考慮しており、客観性をもって現在の支援のあり方を見つめ育成指導を行なっている。利用者の立場に立った「人の気持ち、痛みがわかる」支援であって欲しいと、その思いを職員へ託されている。「先輩職員もだが、利用者に教えていただくことが多い。」と語られた職員の言葉に真摯な姿勢がうかがえて、今後のサービスの充実に大きく期待できる事業所である。

|    | . サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します |   |    |   |   |  |
|----|--|---|----|---|---|--|
|    | 項目   | 取 り 組 み の 成 果<br>該当するものに 印  |    | 取り組みの成果<br>該当するものに印   |   |  |
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向<br>を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)               | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3〈らいの<br>3. 利用者の1/3〈らいの<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19) | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |  |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が<br>ある<br>(参考項目:18,38)                     | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                   | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |  |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                               | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3〈らいが<br>3. 利用者の1/3〈らいが<br>4. ほとんどいない    | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)   | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |  |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)                 | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3〈らいが<br>3. 利用者の1/3〈らいが<br>4. ほとんどいない    | 66 | 職員は、活き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                    | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |  |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)                                  | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3〈らいが<br>3. 利用者の1/3〈らいが<br>4. ほとんどいない    | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満<br>足していると思う                                 | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3〈らいが<br>3. 利用者の1/3〈らいが<br>4. ほとんどいない    |  |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な<br>〈過ごせている<br>(参考項目:30,31)                 | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3〈らいが<br>3. 利用者の1/3〈らいが<br>4. ほとんどいない    | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお<br>おむね満足していると思う                             | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3〈らいが<br>3. 家族等の1/3〈らいが<br>4. ほとんどできていない |  |
|    | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟  | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3(らいが                                    |    | •   |   |  |

2. 利用者の2/3(らいが

3. 利用者の1/3(らいが

4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

| 自  | 外   | 7.5  | 自己評価   | 外部評価  |   |
|----|-----|--|--|---|---|
| 自己 | 部   | 項目   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容   |
| .£ | 里念に | - 基づ〈運営  |  |   |   |
| 1  | (1) | 理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理<br>念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して<br>実践につなげている                          | 「入居者も職員も幸せに、快適に過ごせる施設」<br>を目標にし、自分が入居者の立場なら、自分の<br>身内を入居してもらえるグループホーム作りを<br>スタッフ全員と確認しあっている。 | 理念、スローガンの他に今年は職員一人ひとりが個人目標を立てて達成度を図ることに取り組んだが、統一した目標をもって支援の充実を目指したいとの思いから、管理者は次年度は新たな理念を作成したいと考えている。    |   |
| 2  |     | 事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる<br>よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交<br>流している                          | 周辺環境は住宅街とは言えないが普段通られる<br>方への挨拶、施設行事の地域自治会への声かけ、逆に地域自治会からの声かけにも協力している。                        | 地域住民でもある管理者が培ってきた関係により、自治会、老人会、子供会と行事を通して世代間交流がなされ事業所も認知されてきた。事業所内のプレハブ小屋や畑など施設を一部開放し、地域還元も行なっている。      |   |
| 3  |     | 事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の<br>人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて<br>活かしている                        | 地域の小中学校の福祉体験学習の受け入れや<br>地元老人会の慰問、相談等受けている。   |   |   |
| 4  |     | 運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、<br>評価への取り組み状況等について報告や話し合<br>いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし<br>ている | 2ヶ月に1回参加メンバーで会議を行っている。   | 順調に二ヶ月に一回の会議開催で推移している。行政、家族代表も日程調整が出来て、全員参加での開催である。軌道に乗った現在、更に事業所のことを知って頂きたいとの思いから会議内容の充実を図りたいとしている。    |   |
| 5  |     | 市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所<br>の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝<br>えながら、協力関係を築くように取り組んでいる               | 入居者の中で公的制度を利用されてる方が<br>おられるので相談、連絡等で福祉事務所との<br>行き来がある。                                       | 管理者は行政担当者と運営推進会議以外で、<br>また連絡協議会などネットワーク活動を通じ関<br>係作りを行なってきており、最近は事業所の利<br>用情報についての問い合わせなど連携がなさ<br>れている。 |   |
| 6  | (5) | 代表者および全ての職員が「介指定基準における<br>禁止の対象となる具体的な行為。を正しく理解して  | 日中は施錠はしておらず、自由に出入りできる<br>様にしており、身体拘束に関しても行っていない。   | 外部研修に参加した職員が全体会議において報告し、伝達講習を行なっている。言葉の拘束については、気づきがあれば毎日の申し送りや会議において、管理者が注意喚起と指導を行なっている。                | 全職員の認知と理解度がまだ十分と<br>は言えず、目標達成計画に基づ〈取り<br>組みを継続するとしている。事業所内<br>での学びの機会を再考し、言葉による<br>拘束を回避する為のチームワークによ<br>る支援にも期待したい。 |
| 7  |     | 虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている              | 虐待に関しては肉体的虐待は勿論だが、精神<br>的虐待に関してもふと何気ない言葉にも注意を<br>払いスタッフ全体で認識しあっている。                          |   |   |

| 自  | 外   | ** 0  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| 自己 | 外部  | 項目  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  |     | 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している  | 成年後見制度等実際に行っている役員がおり<br>解らないこと等いつでも相談できる体制を<br>とっている。                                  |   |                   |
| 9  |     | 契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者<br>や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を<br>行い理解・納得を図っている                            | 入居者、その家族の不安、疑問点を理解、納得できるまで話し合いしてからの契約の締結を行っている。解約についても同様にその理由や経緯を話しあい、お互いに納得してから行っている。 |   |                   |
| 10 | (6) | 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている   | 日常的に利用者や家族等が話しやすい雰囲気、<br>関係を築き意見、要望があった場合には運営に<br>反映できるように努めている。                       | 年二回の家族交流会は利用者と家族、職員との交流と親睦に加え、事業所への意見聴取の機会となっている。以前は管理者が主だったが、入居時からの馴染みの職員が家族からの要望、相談を伺うことが増えてきた。 |                   |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や<br>提案を聞〈機会を設け、反映させている  | 毎月のスタッフ会議や日常的にも意見を言いやす   | 職員は管理者へ直接意見や要望が伝えやすい<br>関係である。業務に関することでは、まず主任<br>へ伝え管理者へ報告されるという流れを大切に<br>して検討、解決へ繋げている。          |                   |
| 12 |     | 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・<br>条件の整備に努めている  | 条件や職場環境に関しては、事業所ができる<br>範囲でできる限り、対応できるものに関しては<br>努めて努力している気持ちでいる。                      |   |                   |
| 13 |     | 進めている   | 地域を越えた勉強会の参加や接遇やメンタル的なセミナーへの参加、スタッフ会議等でも内部研修を行っている                                     |   |                   |
| 14 |     | 同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機<br>会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問<br>等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい<br>〈取り組みをしている | 「スタッフの良質なケアの均一化」をホーム内<br>のみではな〈、近隣施設の均一化も考えて研究<br>会等にも参加して相互訪問や研修を行っている。               |   |                   |

| 自  | 外   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| 自己 | 部   |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|    | 足心  | と信頼に向けた関係づくりと支援   |   |  |                   |
| 15 |     | 初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の<br>安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に訪問し、時間がとれる場合や状況を見て施設見学していただきその時に疑問、不安、<br>要望等を聞き取り入居時に混乱が起きないような支援を行っている。                 |  |                   |
| 16 |     | づくりに努めている   | 上項目と同じでご家族にもお会いして、見学も<br>していただいて施設を理解していただき、疑問、<br>不安等がない状態での関係づくりに努めている。                     |  |                   |
| 17 |     | 初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ<br>の時」まず必要としている支援を見極め、他の<br>サービス利用も含めた対応に努めている    | その時点で本人、家族にとって1番ベターなサービスの利用を心掛け、即入居と言う考えは持たず、他のサービスが妥当と思われる場合にはそちらのサービスの利用への促しや他事業所を一緒に探している。 |  |                   |
| 18 |     | 本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、<br>暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 「入居者も職員も幸せに、快適に過ごせる施設」の思いがあるため互いに労り笑いあえる暮らしを大切にしている。  |  |                   |
| 19 |     | 本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、<br>本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支<br>えてい〈関係を築いている     | 家族をないがしろにせず、入居されてからの家族と本人の関係が希薄にならないよう、無理にならない程度に家族への声かけを行い、共に支えてるという共感が得られるようにしている。          |  |                   |
| 20 | (8) | 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている   | どうしても入居されると関係が希薄になりがちな為、自由な面会、時間が可能な時にはこちらから<br>双方無理のない様考えてお邪魔したりして関係が<br>途切れないようにしている。       | 入居に際して、出来る限り利用者と共に過ごす機会をもって頂きたい旨を家族へお伝えしている。通院支援時に自宅周辺へドライブがてら立ち寄ったり、墓参りや馴染みの理容室など希望に沿った個別支援も行なっている。 |                   |
| 21 |     | 利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                     | それぞれ、育ってきた環境、性格が違うので合う合わないがありその人に合う利用者と関わりをもっていけるようトラブルにならない様スタッフ全体で努めている。                    |  |                   |

| 白  | Ы    |  | 自己評価  | 外部評価  |                              |
|----|------|--|---|---|------------------------------|
| 自己 | 外部   | 項目   | 実践状況  | 実践状況  |                              |
| 22 |      | 関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関<br>係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族<br>の経過をフォローし、相談や支援に努めている                         | 利用が終了しても、巡り合えた[縁」を大切に<br>していきたいと思っており、相談等あるときは<br>支援行い、できる限る「縁」が切れない様に<br>努めている。                | 关战机况  | NOX7 77 EIGHT CHILD CEVITS H |
|    | その   | 人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント   |   |   |                              |
| 23 | (9)  | 思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握<br>に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し<br>ている  | 入居者の「今」を大切にして考える様にして、<br>困難な場合も、とりあえず希望や意向を<br>実行してみるよう心掛けている。                                  | チームによるプラン作成に取り組むことで観察力が養われ、利用者の思いや潜在能力の発見がある。また、コミュニケーションに努め五感を働かせて、意思疎通が困難になってきている利用者の意向を汲み取るようにしている。    |                              |
| 24 |      | これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環<br>境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努<br>めている  | 家族や本人に確認しあい、その方にとって<br>サービス内容が合っているか検討している。   |   |                              |
| 25 |      | 暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する<br>力等の現状の把握に努めている  | 個々の過ごし方、心身状態等、観察し過ごし方に<br>問題がある場合には本人の負担にならない程度<br>から少しずつ変えていき、有する力が損なわれ<br>ない様に努めている。          |   |                              |
| 26 | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方<br>について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、<br>それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即<br>した介護計画を作成している | 入居者、家族との日常の会話や気づきの中から<br>意向を把握しケア会議で話し合いを持ち、計画<br>作成者がたてたプランを家族に見ていただき、<br>ご意見を頂〈形で介護計画を作成している。 | 今年度から、職員が気づきからプランの下書きまで関わり最終的に計画作成担当者がチェックする形で取り組んでいる。プラン作成のプロセスに関わることで利用者に真摯に向き合う姿勢を養い、スキルアップに繋げたいとしている。 |                              |
| 27 |      | 個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を<br>個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら<br>実践や介護計画の見直しに活かしている                             | 介護日誌や各チェック表に記入し、スタッフ全体が<br>共有し、気づきに関しては会議や申し送り時に<br>話し合い見直しをしている。                               |   |                              |
| 28 |      | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる                               | かかるつけの病院受診の支援。敷地内における<br>プレハブでは会議や職員の行事の練習の場、<br>地域や他事業所の依頼に応じて提供している。                          |   |                              |

| 自  | 外    | 15 D   | 自己評価  | 外部評価  |  |
|----|------|--|---|---|--|
| 自己 | 部    | 項 目  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 29 |      | 地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握<br>し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな<br>暮らしを楽しむことができるよう支援している  | 読み聞かせの会や警察、消防との連携、地域<br>青年団との協力、地域の学校との福祉の場を<br>提供している。   |   |  |
| 30 | (11) | かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得<br>が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな<br>がら、適切な医療を受けられるように支援している   | かかりつけ医への継続した受診支援を行い、<br>受診の際にはチェック表等持参し、主治医に<br>提示している。結果に関しても家族にも話すよう<br>心掛けている。                 | 家族へは出来る限り付き添いを依頼し、事業所、主治医、家族の三者での関わりを大切にしている。受診結果は面会時や、遠方の家族へは電話で報告している。  |  |
| 31 |      | 看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気<br>づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え<br>て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を<br>受けられるように支援している                              | 利用者とのかかわりの中で気づいた点は医療<br>機関と連携をとり適切な対応の看護を受けられる<br>関係づくりをしている。                                     |   |  |
| 32 |      | 入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、<br>又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係<br>者との情報交換や相談に努めている。あるいは、<br>そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり<br>を行っている。 | 入院した際、スタッフ自ら病院を訪れたり、管理者<br>は病院関係者と密に会い情報交換や相談等<br>して協力関係をとれるように心掛けしている。                           |   |  |
| 33 |      | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い<br>段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所<br>でできることを十分に説明しながら方針を共有し、<br>地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで<br>いる  | 家族の要望にこたえたいと思っており、ホーム内においての介護支援に努め、管理者の自宅も施設の傍らに隣接して緊急時の対応にも備えている。消防の方とも連携をとり、スムーズな対応がとれるようにしている。 | 医療機関(利用者の主治医)とは、夜間、緊急時の対応や往診などの協力体制が確認できており、家族の「ホームで終末期を」という希望には事業所で可能な範囲の支援に努めることとしている。現在まで看取りの事例はなく、家族の判断で病院移行となっている。 |  |
| 34 |      | 急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職<br>員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行<br>い、実践力を身に付けている  | 消防主催の救急法の研修や消防訓練時に<br>救急法のアドバイス等を消防署から受けている。  |   |  |
| 35 | (13) | 災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず<br>利用者が避難できる方法を全職員が身につける<br>とともに、地域との協力体制を築いている  | 災害等の対策として、スタッフの消防学校への<br>参加、避難訓練。消防署,および地域の消防団<br>と災害時の避難および消火時の水源確保等に<br>ついて話し合いの場を設けている。        | いる。罹災後、災害復興に至るまでの備蓄やラ   | 自然災害に対する具体的な対策に取り組まれることに期待したい。避難の方法、建物や近隣地盤の確認、ハザードマップ等の入手など、行政や消防団からの情報収集と検討に運営推進会議の活用などが期待される。 |

| 自  | 外    | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |   |
|----|------|--|---|--|---|
| 自己 | 部    |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容   |
|    | その   | 人らしい暮らしを続けるための日々の支援  |   |  |   |
| 36 | (14) | 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを<br>損ねない言葉かけや対応をしている  | 家族、来訪者の声に耳を傾け、スタッフの言葉づかい、利用者に対する接し方を会議の場で確認しあう機会を設けている。特に利用者に対する尊厳の念を持った話し方には気をつける様にしている。 | 利用者、家族や第三者へ配慮し、自身に置き<br>換えるなど客観性をもって支援を振り返ること<br>を、管理者が常に伝え注意喚起することで見直<br>しを図ってきた。入浴時の同性対応など羞恥心<br>への配慮も怠らないようにしている。 | 利用者の人格を尊重した支援の振り<br>返りと見直しに関しては、継続した取り<br>組みの必要性を管理者が感じており、<br>全職員による統一した支援の向上を目<br>指す意識付けの徹底に今後も期待し<br>たい。 |
| 37 |      | 利用者の希望の表出や自己決定の支援日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                                  | 利用者の中での思いでの散髪や買い物等の訴え<br>があった場合には対応できるようにしている。  |  |   |
| 38 |      | 日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一<br>人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように<br>過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の流れはある程度決ってはいるものの、<br>ベースは業務主体ではなく、利用者主体で考える<br>ように心掛けている。                              |  |   |
| 39 |      | 身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように<br>支援している                                       | 身だしなみやおしゃれに関してはある程度、スタッフの援助にて声かけや手伝いながら行う<br>様にしている。                                      |  |   |
| 40 | (15) | 食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み<br>や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備<br>や食事、片付けをしている      | 施設で採れた野菜を食事の場にあげたり、可能な方にはお手伝いしていただき、時期を見ながら施設の外で花や緑を見ながらの食事会を行い食事を楽しめるようにしている。            | 今年度から職員1名が検食しており、献立や味付けへの参考意見が反映できるようになってきている。持病のある利用者の食事は主治医の指導に従い、調理師の資格を持つ職員により対応と配慮がなされている。                      |   |
| 41 |      | 栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて<br>確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応<br>じた支援をしている           | 病院の行っている食事に対する勉強会の参加や解らない時は栄養士に連絡を取り、疑問点は取り除くようにしている。                                     |  |   |
| 42 |      | 口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一<br>人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア<br>をしている                    | 毎回食事後に個々の口腔ケアに関して行っている。   |  |   |

| 自  | 外   | T  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| 自己 | 部   | 項 目  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 |     | 排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり<br>の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで<br>の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                      | 排泄パターンをみつけて極力最低限のオムツ<br>使用でできるよう下着にパット使用等で対応<br>したりしている。                  | 日中は利用者全員に時間誘導で声かけしてトイレを使用頂き、おむつで入居された方もリハビリパンツ、パット使用への移行を目標に自立支援に努めている。夜間は安全に配慮し、一部ポータブルトイレを使用している。                          |                   |
| 44 |     | 便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工<br>夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に<br>取り組んでいる                                      | ある程度の運動や水分補給、食物繊維等の<br>含まれる食事づくりを心掛けている。                                  |  |                   |
| 45 | , , | 入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を<br>楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決<br>めてしまわずに、個々にそった支援をしている                | 利用者の希望に応えられる様毎日の入浴が<br>可能な様に入浴日は毎日としている。<br>状況に応じてはシャワー浴や清拭を随時行って<br>いる。  | 要望があれば毎日柔軟に対応している。別棟<br>で露天風呂の施設もあり、気候のよい時は楽しんで頂ける。入浴拒否の方へもタイミングを<br>図って対応し、清潔保持のみならずリラックスタ<br>イムとしても支援している。                 |                   |
| 46 |     | 安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じ<br>て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支<br>援している                                      | 個々の生活パターンを把握し、その人に応じた<br>休憩や睡眠時間をとれるようにしている。                              |  |                   |
| 47 |     | 服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用<br>法や用量について理解しており、服薬の支援と症<br>状の変化の確認に努めている                                  | 個々の薬に関しての重要性については会議等で話し合いを場を設けている。服薬の支援も誤薬等無い様にスタッフ全体で声かけ、確認に努めている。       |  |                   |
| 48 |     | 役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一<br>人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、<br>楽しみごと、気分転換等の支援をしている                     | 一人ひとりに応じて散歩、料理の手伝い、草むしり<br>等自らしてくださる。 嗜好品についてはタバコを<br>決った本数を喫煙場所で吸っておられる。 |  |                   |
| 49 |     | 日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 家族に声かけし、外泊が可能な方は外泊して<br>いただいたり、受診の帰りに自宅の様子を見に<br>行ったり買い物等に行ったりしている。       | 車両3台に加えマイクロバスの貸し出しも利用でき、2ユニット合同の外出も可能である。近郊のドライブで季節の風物を楽しむ支援がなされている。 また、広大な自然を活かして整備された庭では、気温に配慮し、暖かな場所でのびのびと散策や外気浴をして頂いている。 |                   |

| 自  | 外    |   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| 自己 | 部    | 項目  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | スタッフと一緒に近所のスーパーに買い物や、<br>欲しいものがあるときはお金の重要性を話し合い<br>ながら支援している。                                       |   |                   |
| 51 |      | 電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙<br>のやり取りができるように支援をしている   | 電話や手紙に関しては自由にかけたり、出せる<br>ようにしている。   |   |                   |
| 52 | (19) | 居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 温かい雰囲気づくりや、窓の外をみると、庭園があり、四季を感じられるようにしている。   | 事業所全体が木のぬくもりが感じられる造作で、デッキが広がる大きな開口部とトップライトにより明るく開放的な室内である。季節や行事の飾りつけも過剰になることなく、ゆったりとした建物の良さが活かされた清潔な共有空間となっている。 |                   |
| 53 |      | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利<br>用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の<br>工夫をしている  | 共有空間の中でもソファーや食事テーブル、和室<br>等あり思い思いに過ごせるようにしている。  |   |                   |
| 54 | (20) | 居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談<br>しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし<br>て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい<br>る                              | 個人差はあるものの、個々の思いがある品物が<br>持ち込まれてあるが、人によっては持ち込み品が<br>少なく、その場合には職員の手作りの飾り付け等<br>行い寒々とした感がないような工夫をしている。 | 備え付けのベッド、クローゼットがある居室は、フローリングと一部畳の2タイプがある。必要に応じた調度品や、寝具は使い慣れた物が持ち込みされ落ち着ける居場所である。                                |                   |
| 55 |      | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活<br>が送れるように工夫している   | 居室やトイレには札をかけているが、ほとんどの<br>場合、もう覚えておられる。入居されて間もない<br>方にはスタッフが気掛けてさりげな〈声かけを<br>するようにしている。             |   |                   |

# 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

| 13.3141111100 |                 |            |            |
|---------------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号         | 4271402143      |            |            |
| 法人名           | 有限会社 みずほ福祉サービス  |            |            |
| 事業所名          | グループホームみずほ野 南棟  |            |            |
| 所在地           | 長崎県雲仙市瑞穂町西郷己797 |            |            |
| 自己評価作成日       | 平成22年11月20日     | 評価結果市町村受理日 | 平成23年1月14日 |

# 事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧して〈ださい。( このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

(参考項目:28)

| 評価機関名 特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構 |       |                          | ット日本福祉医療評価支援機構 |  |  |
|------------------------------------|-------|--------------------------|----------------|--|--|
|                                    | 所在地   | 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階 |                |  |  |
|                                    | 訪問調査日 | 平成22年12月20日              |                |  |  |

| 【事業所が特に力を | 入れている | 点・アピールし | たい点(事業所記入) |
|-----------|-------|---------|------------|
|-----------|-------|---------|------------|

| 「似如何不知知」          | た事業所の優れている占   | T土占(並価機関記入) |
|-------------------|---------------|-------------|
| しょいうしょ コロー しょうはんし | ル・事手的いが変れている! |             |

|    | . サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します |   |    |   |   |  |
|----|--|---|----|---|---|--|
|    | 項目   | 取 り 組 み の 成 果<br>該当するものに 印  |    | 項目  | 取 り 組 み の 成 果<br>該当するものに 印  |  |
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向<br>を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)               | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3〈らいの<br>3. 利用者の1/3〈らいの<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよ〈聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)      | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3〈らいと<br>3. 家族の1/3〈らいと<br>4. ほとんどできていない    |  |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面<br>がある<br>(参考項目:18,38)                     | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)                         | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |  |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                               | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3〈らいが<br>3. 利用者の1/3〈らいが<br>4. ほとんどいない    | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |  |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした<br>表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)             | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3〈らいが<br>3. 利用者の1/3〈らいが<br>4. ほとんどいない    | 66 | 職員は、活き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3〈らいが<br>3. 職員の1/3〈らいが<br>4. ほとんどいない       |  |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい<br>る<br>(参考項目:49)                          | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3〈らいが<br>3. 利用者の1/3〈らいが<br>4. ほとんどいない    | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満<br>足していると思う                                   | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |  |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な<br>〈過ごせている<br>(参考項目:30,31)                 | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3〈らいが<br>3. 利用者の1/3〈らいが<br>4. ほとんどいない    | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお<br>おむね満足していると思う                               | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |  |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている                           | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3〈らいが<br>3. 利用者の1/3〈らいが                  |    |   |   |  |

3. 利用者の1/3(らいが

4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

| 自  | 外   | TG   | 自己評価   | 外部評価 | <u> </u>          |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
| 自己 | 部   | 項目   | 実践状況   | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| £. | 里念し | こ基づ〈運営   |  |      |                   |
| 1  | (1) | 理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理<br>念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して<br>実践につなげている                                | 「入居者も職員も幸せに、快適に過ごせる施設」<br>を目標にし、自分が入居者の立場なら、自分の<br>身内を入居してもらえるグループホーム作りを<br>スタッフ全員と確認しあっている。 |      |                   |
| 2  | (2) | 事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している  | 周辺環境は住宅街とは言えないが普段通られる<br>方への挨拶、施設行事の地域自治会への声かけ、逆に地域自治会からの声かけにも協力している。                        |      |                   |
| 3  |     | 事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の<br>人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて<br>活かしている                              | 地域の小中学校の福祉体験学習の受け入れや<br>地元老人会の慰問、相談等受けている。   |      |                   |
| 4  | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを<br>行い、そこでの意見をサービス向上に活かしてい<br>る           | 2ヶ月に1回参加メンバーで会議を行っている。   |      |                   |
| 5  | (4) | 市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所<br>の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え<br>ながら、協力関係を築くように取り組んでいる                     | 入居者の中で公的制度を利用されてる方が<br>おられるので相談、連絡等で福祉事務所との<br>行き来がある。                                       |      |                   |
| 6  | (5) | 身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における<br>禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して<br>おり、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア<br>に取り組んでいる | 日中は施錠はしておらず、自由に出入りできる<br>様にしており、身体拘束に関しても行っていない。   |      |                   |
| 7  |     | 虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につい<br>て学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で<br>の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、<br>防止に努めている        | 虐待に関しては肉体的虐待は勿論だが、精神<br>的虐待に関してもふと何気ない言葉にも注意を<br>払いスタッフ全体で認識しあっている。                          |      |                   |

| 自  | 外   | 項目  | 自己評価   | 外部評价 | 西                 |
|----|-----|---|--|------|-------------------|
| 自己 | 外部  |   | 実践状況   | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  |     | 権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年<br>後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性<br>を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援<br>している    | 成年後見制度等実際に行っている役員がおり<br>解らないこと等いつでも相談できる体制を<br>とっている。                                  |      |                   |
| 9  |     | 契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者<br>や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を<br>行い理解・納得を図っている                            | 入居者、その家族の不安、疑問点を理解、納得できるまで話し合いしてからの契約の締結を行っている。解約についても同様にその理由や経緯を話しあい、お互いに納得してから行っている。 |      |                   |
| 10 | (6) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な<br>らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営<br>に反映させている                         | 日常的に利用者や家族等が話しやすい雰囲気、<br>関係を築き意見、要望があった場合には運営に<br>反映できるように努めている。                       |      |                   |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や<br>提案を聞く機会を設け、反映させている  | 毎月のスタッフ会議や日常的にも意見を言いやすい様な雰囲気、関係づくりを心掛けている。   |      |                   |
| 12 |     | 就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤<br>務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい<br>など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・<br>条件の整備に努めている      | 条件や職場環境に関しては、事業所ができる<br>範囲でできる限り、対応できるものに関しては<br>努めて努力している気持ちでいる。                      |      |                   |
| 13 |     | 職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際<br>と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の<br>確保や、働きながらトレーニングしていくことを進め<br>ている         | なセミナーへの参加、スタッフ会議等でも内部研   |      |                   |
| 14 |     | 同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機<br>会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問<br>等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく<br>取り組みをしている | 「スタッフの良質なケアの均一化」をホーム内<br>のみではなく、近隣施設の均一化も考えて研究<br>会等にも参加して相互訪問や研修を行っている。               |      |                   |

| 自  | 外   | 75 0  | 自己評価  | 外部評価 | <b>T</b>          |
|----|-----|---|---|------|-------------------|
| 自己 | 部   | 項目  | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 2  | 安心と | :信頼に向けた関係づくりと支援   |   |      |                   |
| 15 |     | 初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の<br>安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に訪問し、時間がとれる場合や状況を見て施設見学していただきその時に疑問、不安、<br>要望等を聞き取り入居時に混乱が起きないよう<br>な支援を行っている。             |      |                   |
| 16 |     | 初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っている<br>こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係<br>づくりに努めている        | 上項目と同じでご家族にもお会いして、見学も<br>していただいて施設を理解していただき、疑問、<br>不安等がない状態での関係づくりに努めている。                     |      |                   |
| 17 |     | 初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ<br>の時」まず必要としている支援を見極め、他のサー<br>ビス利用も含めた対応に努めている    | その時点で本人、家族にとって1番ベターなサービスの利用を心掛け、即入居と言う考えは持たず、他のサービスが妥当と思われる場合にはそちらのサービスの利用への促しや他事業所を一緒に探している。 |      |                   |
| 18 |     | 本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、<br>暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 「入居者も職員も幸せに、快適に過ごせる施設」の思いがあるため互いに労り笑いあえる暮らしを大切にしている。  |      |                   |
| 19 |     | 本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、<br>本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支<br>えていく関係を築いている     | 家族をないがしろにせず、入居されてからの家族と本人の関係が希薄にならないよう、無理にならない程度に家族への声かけを行い、共に支えてるという共感が得られるようにしている。          |      |                   |
| 20 | (8) | 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所<br>との関係が途切れないよう、支援に努めている   | どうしても入居されると関係が希薄になりがちな為、自由な面会、時間が可能な時にはこちらから<br>双方無理のない様考えてお邪魔したりして関係が<br>途切れないようにしている。       |      |                   |
| 21 |     | 利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような<br>支援に努めている                 | それぞれ、育ってきた環境、性格が違うので合う合わないがありその人に合う利用者と関わりをもっていけるようトラブルにならない様スタッフ全体で努めている。                    |      |                   |

| 自  | 外      | ** 0   | 自己評価  | 外部評価 | <u> </u>          |
|----|--------|--|---|------|-------------------|
| 自己 | 外<br>部 | 項 目  | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 |        | にはできます し、旧版で文法に分のでする   | 利用が終了しても、巡り合えた[縁」を大切に<br>していきたいと思っており、相談等あるときは<br>支援行い、できる限る「縁」が切れない様に<br>努めている。                |      |                   |
|    |        | 人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント   |   |      |                   |
| 23 | (-)    | 思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握<br>に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し<br>ている  | 入居者の「今」を大切にして考える様にして、<br>困難な場合も、とりあえず希望や意向を<br>実行してみるよう心掛けている。                                  |      |                   |
| 24 |        | 現、これは とのサービス利用の経過等の指揮に劣<br>めている  | 家族や本人に確認しあい、その方にとって<br>サービス内容が合っているか検討している。   |      |                   |
| 25 |        | 暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する<br>力等の現状の把握に努めている  | 個々の過ごし方、心身状態等、観察し過ごし方に<br>問題がある場合には本人の負担にならない程度<br>から少しずつ変えていき、有する力が損なわれ<br>ない様に努めている。          |      |                   |
| 26 |        | チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方に<br>ついて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、そ<br>れぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した<br>介護計画を作成している | 入居者、家族との日常の会話や気づきの中から<br>意向を把握しケア会議で話し合いを持ち、計画<br>作成者がたてたプランを家族に見ていただき、<br>ご意見を頂〈形で介護計画を作成している。 |      |                   |
| 27 |        | 個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を<br>個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら<br>実践や介護計画の見直しに活かしている                             | 介護日誌や各チェック表に記入し、スタッフ全体が<br>共有し、気づきに関しては会議や申し送り時に<br>話し合い見直しをしている。                               |      |                   |
| 28 |        | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる                               | かかるつけの病院受診の支援。敷地内における<br>プレハブでは会議や職員の行事の練習の場、<br>地域や他事業所の依頼に応じて提供している。                          |      |                   |

| 自  | 外    |  | 自己評価  | 外部評価 | <b>T</b>          |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| 自己 | 部    | 項 目  | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 |      | 地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握<br>し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな<br>暮らしを楽しむことができるよう支援している  | 読み聞かせの会や警察、消防との連携、地域<br>青年団との協力、地域の学校との福祉の場を<br>提供している。   |      |                   |
| 30 | (11) | かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得<br>が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな<br>がら、適切な医療を受けられるように支援している   | かかりつけ医への継続した受診支援を行い、<br>受診の際にはチェック表等持参し、主治医に<br>提示している。結果に関しても家族にも話すよう<br>心掛けている。                 |      |                   |
| 31 |      | 看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気<br>づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて<br>相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受<br>けられるように支援している                              | 利用者とのかかわりの中で気づいた点は医療<br>機関と連携をとり適切な対応の看護を受けられる<br>関係づくりをしている。                                     |      |                   |
| 32 |      | 入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、<br>又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係<br>者との情報交換や相談に努めている。あるいは、<br>そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを<br>行っている。 | 入院した際、スタッフ自ら病院を訪れたり、管理者<br>は病院関係者と密に会い情報交換や相談等<br>して協力関係をとれるように心掛けしている。                           |      |                   |
| 33 | (12) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い<br>段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所<br>でできることを十分に説明しながら方針を共有し、<br>地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでい<br>る  | 家族の要望にこたえたいと思っており、ホーム内においての介護支援に努め、管理者の自宅も施設の傍らに隣接して緊急時の対応にも備えている。消防の方とも連携をとり、スムーズな対応がとれるようにしている。 |      |                   |
| 34 |      | 急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職<br>員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行<br>い、実践力を身に付けている  | 消防主催の救急法の研修や消防訓練時に<br>救急法のアドバイス等を消防署から受けている。  |      |                   |
| 35 | (13) | 災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利<br>用者が避難できる方法を全職員が身につけるとと<br>もに、地域との協力体制を築いている  | 災害等の対策として、スタッフの消防学校への<br>参加、避難訓練。消防署,および地域の消防団<br>と災害時の避難および消火時の水源確保等に<br>ついて話し合いの場を設けている。        |      |                   |

| 自  | 外    | 項目   | 自己評価  | 外部評価 | <b>т</b>          |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| 自己 | 部    | ,  | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|    |      | 人らしい暮らしを続けるための日々の支援  |   | _    |                   |
|    | (14) | 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを<br>損ねない言葉かけや対応をしている  | 家族、来訪者の声に耳を傾け、スタッフの言葉づかい、利用者に対する接し方を会議の場で確認しあう機会を設けている。特に利用者に対する尊厳の念を持った話し方には気をつける様にしている。 |      |                   |
| 37 |      | 利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自<br>己決定できるように働きかけている                          | 利用者の中での思いでの散髪や買い物等の訴え<br>があった場合には対応できるようにしている。  |      |                   |
| 38 |      | 日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一<br>人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように<br>過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の流れはある程度決ってはいるものの、<br>ベースは業務主体ではなく、利用者主体で考える<br>ように心掛けている。                              |      |                   |
| 39 |      | 身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように<br>支援している                                       | 身だしなみやおしゃれに関してはある程度、スタッフの援助にて声かけや手伝いながら行う<br>様にしている。                                      |      |                   |
| 40 | (15) | 食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み<br>や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備<br>や食事、片付けをしている      | 施設で採れた野菜を食事の場にあげたり、可能な方にはお手伝いしていただき、時期を見ながら施設の外で花や緑を見ながらの食事会を行い食事を楽しめるようにしている。            |      |                   |
| 41 |      | 栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて<br>確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応<br>じた支援をしている           | 病院の行っている食事に対する勉強会の参加や<br>解らない時は栄養士に連絡を取り、疑問点は<br>取り除〈ようにしている。                             |      |                   |
| 42 |      | 口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一<br>人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア<br>をしている                    | 毎回食事後に個々の口腔ケアに関して行っている。   |      |                   |

| 自  | 外      | 項目   | 自己評価  | 外部評価 | <b>T</b>          |
|----|--------|--|---|------|-------------------|
| 自己 | 外<br>部 |  | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16)   | 排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり<br>の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで<br>の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                                      | 排泄パターンをみつけて極力最低限のオムツ<br>使用でできるよう下着にパット使用等で対応<br>したりしている。                  |      |                   |
| 44 |        | 便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工<br>夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取<br>り組んでいる  | ある程度の運動や水分補給、食物繊維等の<br>含まれる食事づくりを心掛けている。                                  |      |                   |
| 45 | (17)   | 入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を<br>楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決<br>めてしまわずに、個々にそった支援をしている                                | 利用者の希望に応えられる様毎日の入浴が<br>可能な様に入浴日は毎日としている。<br>状況に応じてはシャワー浴や清拭を随時行って<br>いる。  |      |                   |
| 46 |        | 安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援<br>している  | 個々の生活パターンを把握し、その人に応じた<br>休憩や睡眠時間をとれるようにしている。                              |      |                   |
| 47 |        | 服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用<br>法や用量について理解しており、服薬の支援と症<br>状の変化の確認に努めている  | 個々の薬に関しての重要性については会議等で話し合いを場を設けている。服薬の支援も誤薬等無い様にスタッフ全体で声かけ、確認に努めている。       |      |                   |
| 48 |        | 役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一<br>人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、<br>楽しみごと、気分転換等の支援をしている                                     | 一人ひとりに応じて散歩、料理の手伝い、草むしり<br>等自らして〈ださる。 嗜好品についてはタバコを<br>決った本数を喫煙場所で吸っておられる。 |      |                   |
| 49 | (18)   | 日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出か<br>けられるよう支援に努めている。又、普段は行けな<br>いような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地<br>域の人々と協力しながら出かけられるように支援し<br>ている | IV ICCVICY、文的のmりに自己のix 」で元に   |      |                   |

| 自  | 外<br>部 | 項目  | 自己評価  | 外部評価 |  |
|----|--------|---|---|------|--|
| 自己 |        |   | 実践状況  | 実践状況 |  |
| 50 |        | お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | スタッフと一緒に近所のスーパーに買い物や、<br>欲しいものがあるときはお金の重要性を話し合い<br>ながら支援している。                                       |      |  |
| 51 |        | 電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙<br>のやり取りができるように支援をしている   | 電話や手紙に関しては自由にかけたり、出せるようにしている。   |      |  |
| 52 | (19)   | 居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 温かい雰囲気づくりや、窓の外をみると、庭園があり、四季を感じられるようにしている。   |      |  |
| 53 |        | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利<br>用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工<br>夫をしている  | 共有空間の中でもソファーや食事テーブル、和室<br>等あり思い思いに過ごせるようにしている。  |      |  |
| 54 | (20)   | 居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談<br>しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし<br>て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい<br>る                              | 個人差はあるものの、個々の思いがある品物が<br>持ち込まれてあるが、人によっては持ち込み品が<br>少なく、その場合には職員の手作りの飾り付け等<br>行い寒々とした感がないような工夫をしている。 |      |  |
| 55 |        | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」<br>を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が<br>送れるように工夫している                                     | 居室やトイレには札をかけているが、ほとんどの場合、もう覚えておられる。入居されて間もない方にはスタッフが気掛けてさりげな〈声かけをするようにしている。                         |      |  |